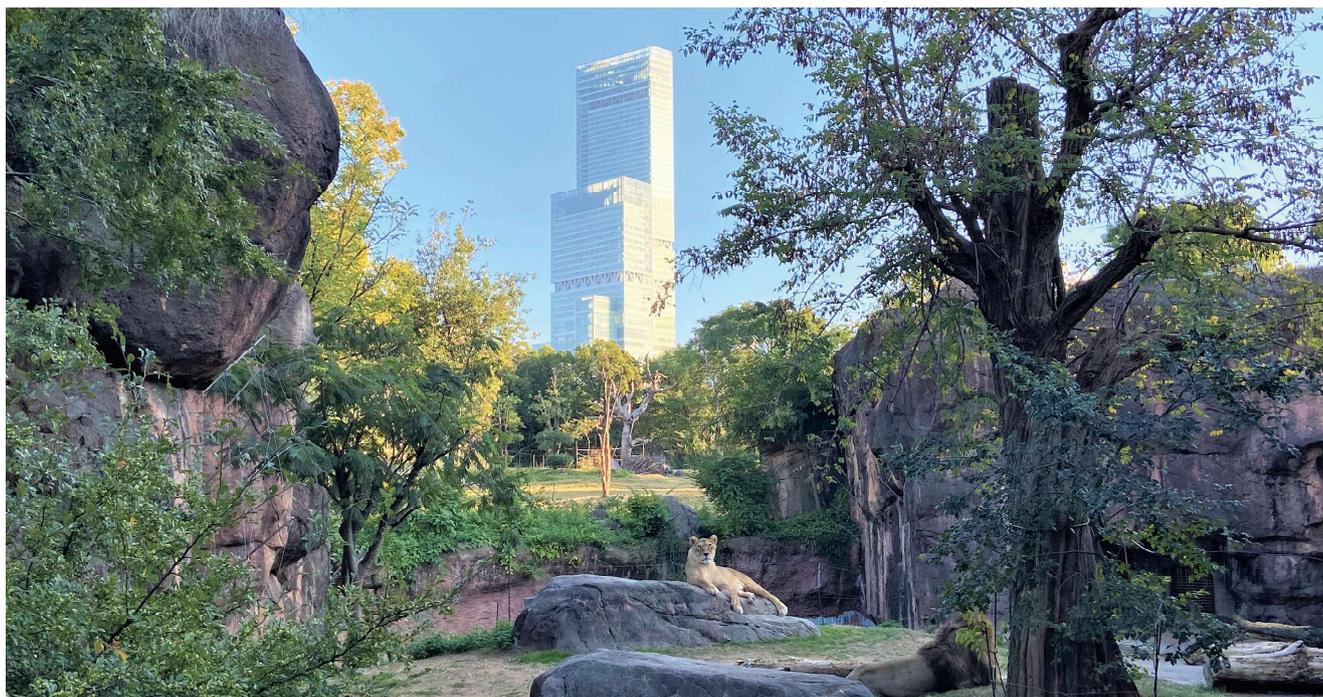


真宗佛光寺派
大阪教区・
別院だより

大悲

第50号

令和5年(2023年)
7月1日 発行



夏の動物園「ライオンはどこにいる？」(大阪市天王寺区、天王寺動物園)

『パンダはどこにいる?』という絵本があります。自分をパンダだと思っていないパンダのお話です。

ある日、パンダは水たまりに足を滑らせ、そこに映った自分の姿を見てはじめて自分はパンダだったと気づきます。

私もある一言で自分の姿に気づかされたことがあります。私は自分自身を「人に気を配ることができて、何事にも気のつく人間だ」と思っていました。

ところが弟に「兄ちゃんはいつもみんなに気を配っているけども、それ以上に他のみんなは兄ちゃんに対して気を遣っていることに気づいてへんな」と言われ、とてもショックを受けました。

私もパンダのように自分の姿をわかっていません。だからこそ、お念仏という鏡に私が照らされて、映し出されてはじめて自身の姿が知らされます。それはお念仏の教えに出遇えた瞬間ともいえるのです。

(玉出宗順)



と う ひ が ん 到 彼 岸



「またね」

浄方寺

かどかわ たかし
門川 崇志

死の縁、無量

お通夜の席で、喪主の坊守さまが、先生が亡くなられた経緯をお話ししてくださいました。

京都の学校で教鞭をとられていた先生は、コロナ禍で対面の講義もできなため、自坊の福井県のお寺に帰っておられました。そして昨年の北陸地方の大雪。お朝事を勤めた後、先生は屋根に積もった大雪を気にしてか、本堂から雪駄で境内に降り、そこで足を滑らせて、頭を打たれたようです。早朝だったこともあり発見が遅れ、病院に搬送されましたが、その日の夕方に亡くなられたということでした。

コロナ禍でなければ京都におられたでしょうし、大雪でなければ外に出られることもなかったはず。改めていのちの無常を教えられた厳しいご縁でした。

ともに浄土で会う

頭の中が真っ白だという坊守さまは、「今、一つ思い出せることがあります」と話を続けられました。「生前よく、『あなた、先に逝かないでね』と言うと、その返事はいつも決まっていました」とのことでした。

「いのちの後先は分からない。でもそのことを心配しなくてよい世界にすでに遭遇しているから有り難いなあ」

浄土の教えに出遇えば、先立っていかれた方々と、また会わせていただくことができる世界が開かれます。

今生の別れに「さよなら」ではなく「またね」と言える。そんな安心が恵まれていることに気づかせていただいた大切なご縁となりました。



コロナ禍の昨年二月、学生時代の友人たちと、恩師が書かれた「正信偈」の解説書を読む勉強会をリモートで行っていました。その時、みんなのスマホの通知音が同時に鳴り響きました。それは先ほど、その恩師がご往生されたという知らせでした。「あんなに元気だった先生がなぜ」とモニターに映るみんなが絶句する時間が流れました。

如じよ是ぜ我が聞もん

煩惱を断ぜずして涅槃を得

大阪教区 最勝寺 中井翔隆なかい しょうりゅう師



大阪別院彼岸会にて中井師は、「正信偈」の「能発一念喜愛心 不断煩惱得涅槃」（能く一念喜愛の心を発すれば、煩惱を断ぜずして涅槃を得）を讃題としてご法話されました。

涅槃を得

「涅槃」とは、私たちの中から煩惱がすべてなくなった安らかな悟りの世界のことを指しますが、その前に「煩惱を断ぜずして」とあります。

煩惱を断たずに、煩惱のない悟りの世界を得るとい

とはどういうことでしょうか。

煩惱によって湧き出る欲は、いくら願いが叶っても満たされることはありません。しかもこの身は生まれながらにしてすでに煩惱を持っており、取り除くこともできません。

このような煩惱を抱えた身が穏やかな悟りの世界をいただくには、「喜愛の心」つまり本当に求めるべき喜びの心を「発する」ことだと正信偈に示されています。

この「喜愛の心」とは、自分自身の思いから離れ、今こ

こにある事実を生きることができるといふ喜びの心です。その事実とは「私が私でよかった」ということに尽きるのではないのでしょうか。

他の誰でもなく、この私がかげがえのない身をいただきたいという事実を喜ぶ心というのは、私自身がおこす心ではなく、仏さまのはたらきによって、私の中におこる心なのです。

仏さまの願い

自分の力で煩惱をなくすこ

とができない上に、煩惱に惑わされ続けていることさえ気づいていない私に対して、仏さまは煩惱があることを咎めることはありません。

都合のよいことばかりに目がいき、もつとこうだったらいいのにと、私自身のいのちの道理に目を背けてしまう私こそが、仏さまの願いに生きるいのちであるとお示しくださっているのです。

聴聞して

「煩惱でさえも私たちの生きる力となり、煩惱の身であるからこそ、仏さまは私たちの歩んでいける道を用意され、この迷いの身に常にはたらきかけてくださっている」という結びの言葉が自身の身に響きました。

（隅谷 俊紀 記）

大阪探検

いぶつ キリシタン遺物史料館



史料館の外観

JR京都線茨木駅から北に約10キロ、茨木市千提寺地区に茨木市立キリシタン遺物史料館があります。

この地はかつてキリシタン大名として有名な高槻城主・高山右近の領地であった影響で、キリスト教禁制後も隠れキリシタンとなり山奥のこの地で信仰を密かに守りつづけた人々がいました。

1919（大正8）年に真宗大谷派教誓寺の住職で郷土史家の藤波大超氏が、十字架と洗礼名「マリア」の文字が刻まれた「キリシタン墓碑」を発見。このことによりこの地が隠れキリシタンの里であることを確認し、それをきっかけに

遺物が発見されました。

1920年の調査で、物置の隅にあった「あけずの櫃」から歴史の教科書に載っている有名な聖フランシスコ・ザビエル像（重要文化財）が発見されました。

守り伝えられた遺物

この史料館には十字架に磔はりつけになったキリストの木像、聖者を象ったメダイ（ネックレスのトップ）、ロザリオ（念珠）等々も展示されています。

また茨木の隠れキリシタンに対する踏み絵の話や、葬儀式はまず仏式で執り行い、立ち合いの役人が帰ってから神に祈りを捧げた話などが残されています。他の民間信仰と深く混じり独特の信仰形態をとってまでして伝えられてきた

信仰の深さを感じ取れます。

史料館へのアクセスは茨木駅から阪急バス「千提寺口」バス停下車東へ900メートルです。

（葦名彰）



聖フランシスコ・ザビエル像（神戸市立博物館 所蔵）

Photo : Kobe City Museum / DNPartcom

お店を訪ねて

八木米壽堂（京都市下京区）

京都・烏丸にある八木米壽堂は掛軸、絵画、書の修復や表装をされています。本山佛光寺との関係は100年以上の歴史があり、京都でも数少なくなった専門店です。

社長である八木忠彦氏は博物館で修復などの仕事を11年ほど勤められた後、表具師として数多くの表装を手がけてこられました。現在は息子さんの智正氏と協力しながら作業をされています。

昔ながらの手法にこだわる

表具を修復するにあたり、^{にかわ}膠を使い墨などがにじまないよう丁寧に水を含ませてあく抜きをし、濡れた作品を和紙で挟み込むと乾燥するとき汚れが水に吸い出され和紙の外側ににじみ出ます。この作業を数回繰り返した後、裏打ちの張り直し、そして表装をするそうです。たいへん手間と時間のかかる作業ですが、昔



作業する智正氏（左）と恵照尼公筆の表札

から伝わってきた手法で修復されています。

「機械でやる方法もあるのですが、一度作品の形が崩れてしまうとやり直しがききません。100年以上前のものを当時とできるだけ近い手法で作業することで、先の100年後にまた同じように修復できるように」とおっしゃっていました。だから注文を受けてお返しするまでに数ヶ月

かかることもあるそうです。

伝統を継承する

先祖から受け継いできた手法を、継承することが使命だとおっしゃる智正氏。仕入れ品の価格も高騰し、大変そうですが、未来へ繋げるために伝統的な手間のかかる作業を続けられています。

また、社長は「コロナ禍で仕事が激減したときに、先代から受け継がれてきた出入りの仕事のありがたさに感謝しています。多様化する現代社会において日本の大切な伝統、文化を継承していきたい」と力強くお話しくださいました。

（寿栄松正顕）

■八木米壽堂

〒600-8074

京都市下京区東前町422

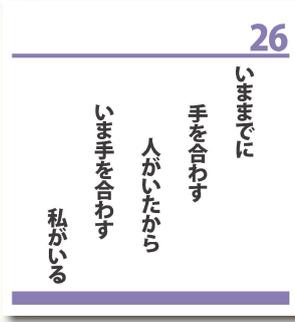
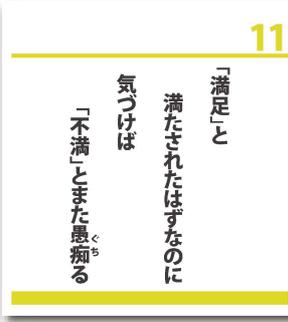
電話 075-351-2853

Fax 075-352-3258

大悲トピックス

■決定！「日めくり法語カレンダー」再版

『大悲』49号（令和5年4月1日発行）の発送と共に、皆様からのご要望、お問い合わせにお応えするかたちで「日めくり法語カレンダー」の再版と販売について」を御寺院様に同封させていただきました。



門徒さん宅へ参詣した際、ご家族の目にとまるところに置いてくださる光景にふれ、大変喜んでおります。

「日めくり法語カレンダー」の日々の言葉が、ご購入いただいた御寺院の門徒さんに喜んでいただけることを願ってやみません。

第50号の発行を迎え、『大悲』誌もさらなる充実した内容をめざし、奮闘する所存です。今後ともご協力、ご指導をお願い申し上げます。
（大悲の会会長 長田 譲）

■懇志御礼

- 奈良教区御一同様
- 東京都台東区 西徳寺様
- 新潟県三条市 徳誓寺様
- 滋賀県近江八幡市 正覚寺様

■お悔やみ

- 謹んで哀悼の意を表します。
- 第一組・最勝寺
 - 中井哲子様（2月27日寂）
 - 第五組・本光寺
 - 菅野久光様（4月15日寂）

創業100余年・お墓の専門店

石留石材株式会社

土日祝もご相談いただけます（8時～17時）

☎ **0120-53-5578**

■本社：大阪府藤井寺市津堂2丁目9番29号

御本山 **近** 用達

川勝法衣店

株式会社

フリーダイヤル **0120-075-055**
（〒600-8344）京都市下京区花屋町通油小路東入

電話 (075) 371-0367(代)
FAX (075) 371-5088

お墓なんでも相談センター

永遠の想いを像に還るお手伝い

ヨシザワ

株式会社 吉澤石材工業所

フリーダイヤル **0120-49-1482**

和奏の会 翠笛会

寺院のイベントに邦楽（尺八・箏）出張演奏いたします。
曲目はリクエストできます。

事務局：阪南市新町 宝林寺
電話 072-472-1414
<http://homepage2.nifty.com/suiteki/>

表具 **八木米寿堂**

御本尊掛軸修理 絵画、書の表装

〒600-8073
京都市下京区柳馬場通仏光寺上る
tel 075-351-2853 fax 075-352-3258

浜屋は関西最大級の
お仏壇・お仏具・墓石・御寺院お仏具の
専門店です。

やすらぎの
世界を創る

浜屋

通話料無料/浜屋姫路本社フリーダイヤル

お問い合わせ
お申し込みは **0120-1616-94**

●受付時間/午前10時～午後6時30分

だいひ 絵日記

- 4月12日(水) 大悲の会編集会議(第50号読み合わせ)(オンライン会議)
4月26日(水) 大悲の会編集会議(第50号読み合わせ)(オンライン会議)
4月28日(金) 法友会・佛青懇和会研修会
(慶讃法会声明研修、講師：寺田宗隆 師) ①
5月17日(水) 大悲の会編集会議(第50号読み合わせ)(オンライン会議)
6月6日(火) さつき会総会 ②
6月6日(火) 佛青懇和会総会
6月16日(金) さつき会研修会(「ようこそ、ようこそ」、講師：藤井良丸 師)
6月23日(金) 大悲の会編集会議(第50号発送作業・第51号内容検討)
6月26日(月) 法友会総会、大阪教区総会
(法友会=住職会、さつき会=坊守会、佛青懇和会=青年会)



協賛

佛青懇和会

大阪教区の青年会
(会長：門川崇志)

協賛

さつき会

大阪教区の坊守会
(会長：玉出みゆき)

協賛

法友会

大阪教区の住職会
(会長：寺田宗隆)

■誌面広告の募集 (『大悲』発行は広告によって支えられています)

企業・団体・寺院の広告を誌面に掲載させていただきます。

1区画(55mm×40mm)、掲載1回につき5,000円です。

■定期購読の受付 (ご門徒の皆様方にもお渡しく下さい)

『大悲』の定期購読は、1部につき30円です(送料込)。10部単位でお願いいたします。

どなた様でもお参りいただけます

法要・法話会のご案内

大阪別院孟蘭盆会

8月13日(日) 午後2時
8月14日(月) 午後2時
8月15日(火) 午後2時

大阪別院彼岸会

9月20日(水) 午後2時
法話：中井 翔隆 師
9月23日(土・祝) 午後2時
法話：玉出 宗順 師
9月26日(火) 午後2時
法話：葦名 彰 師



お寺の掲示板

わたしも尊い

あなたも尊い

この眼差しがあれば

争いも起らないのに

編集秘話

今春、高校と中学に入学した我が子。新しい環境で馴染めるかと心配しましたが、二人とも元気に登校しています。その様子にホッとした途端、「中間試験に向けてしっかり勉強しろ」と口にする私。ただ元気に登校してほしいと願っていたはずなのに。何事も目先のことだけしか捉えられない私の姿がそこにあります。(玉出)

編集後記

『大悲』も今号で、節目の第50号を迎えました。継続しつつも、心新たに活動していきますので、今後ともよろしくお願いします。★「日めくり法語カレンダー」の再版が決定。ご寺院や門徒さんが工夫を凝らして活用していただいている姿を目の当たりにし、編集・発行した私たちもうれしい限りです。(編集長・隅谷)

大阪教区・別院だより『大悲』 第50号(夏号)
令和5年(2023年)7月1日発行 (発行部数2200部)

発行：大悲の会

事務所：佛光寺大阪別院内

〒558-0011 大阪市住吉区苅田6-11-24 電話06-6691-1362

郵便振替口座：口座番号「00990-4-305218」加入者名「大悲の会」

ホームページ(HP) <http://daihi.org/> (ご意見・ご感想はHP内の「お問い合わせフォーム」より)

大悲の会

長田 譲(会長)

隅谷 俊紀(副会長)

寿栄松 正顕(会計)

玉出 宗順(会計)

門川 崇志(監事)

佐々木 太一

葦名 彰

中井 翔隆